

1. 小学校児童対象アンケート結果について

(2)自分の生活について

4の質問で「ウ あまりそう思わない」と答えた児童がいることについて次の改善点を考えた。

- ・家庭内でのことと考え、進んで言えていないと思っているかもしれないので、各学級で聞いてみて、声をかけ改善していく。

2. 中学校生徒対象アンケート結果について

「12 先生は分かりやすい授業をしてくれている」がAにもかかわらず、「13 今、学習していることはよくわかる」がBである点に注目した。

- ・授業内容は理解できているが、学力(テストの点数)に結びついていないことが反省点である。今年度より、学力検査(基礎学力テスト)の内容がより思考力を問う問題に変わってきた。これまでの知識重視の教育では点数がとれない。限られた時間で長文の問題を読み取り、学んできた学習内容を組み合わせで解決していくという力が必要になっている。今後、教師側の授業もさらに工夫を重ねていかなければならない。

3. 保護者対象アンケート結果について

Cを選択している項目1,4,5,7及びBよりAが低い項目16についての改善点を考えた。

- ・項目1について、コロナ禍での活動制限により、ひじきの売り方、磯学習の泊まりがない、修学旅行の日程の変動等が原因かもしれない。活動を少しずつもどし、その様子が伝わるように連絡していく。
- ・項目4, 5, 7は原因が連鎖している可能性が高い。そこで学校としての対応の仕方を統一するためには、管理職、教務、同僚との、報告・連絡・相談を確実に行う。少しずつ改善させるため、気になったことは保護者と電話、連絡帳等に一言でよいので連絡を取る。
- ・その子に応じた対応をとることが大切。折を見て連絡して、良いこと7, 改善してほしいこと3くらいの割合で電話や連絡帳に記入すること。学校からの連絡が悪いものだけに限定されないようにする。

4. 教職員対象アンケート結果について

- ・全職員で足並みをそろえて教育活動に取り組むために、年度始職員会で学校教育目標を共通理解し、方針を統一する。
- ・学校運営に教職員の意見を反映し、こまめな情報交換をするために、終礼や職員朝会、職員会で発言し合うことのできる状況を作る。
- ・学習方法を工夫・改善するために、教師の一方的な教え込みにならず、子どもの主体的な学びとなるよう常に意識し、実践する。また、振り返りを重視する等、評価の工夫をする。
- ・「徳島県GIGAスクール構想」の取り組みとして、コロナ禍の現状でも柔軟に対応できる授業体制の構築(タブレットの持ち帰り)や授業におけるICTの活用についての研修を推進する。
- ・SDGsに関する内容を様々な教科と絡ませながら考えさせていく。(総合的な学習の時間におけるESDの展開)

5. 次年度に向けて

(1) 学習指導

- ・学力向上のために、学習規律の徹底から細かいルールづくり等、学習環境(授業のユニバーサルデザイン化)を整えることが大切である。また、授業研究会を実施し、授業の進め方等を共通理解するとともに、授業の導入・展開・結びのポイントを整理し、全教職員が一様に実践する。
- ・児童生徒の主体性や思考力を育むために、授業での話し合いの場面設定を工夫する。→児童生徒同士の相互評価を行い、深い学びへと繋げていく。

(2) 児童生徒指導, 児童生徒理解

- ・児童生徒の様子について、全教職員で情報を共有したり、相談できる時間を確保する。そのために、毎月の職員会や終礼の中に情報共有の時間を明確に位置づける。
- ・教師主導ではなく、児童生徒の自己有用感を高められる指導を行うために、ポジティブな行動支援を充実させ、一人一人の良いところを全教職員が共有する。
- ・「不祥事根絶対策タスクフォースからの『提案』」における学習指導や生徒指導での「してはいけないこと」及び自校における「配慮すること」についての具体的な取り組みを再確認する。

(3) 研修の充実

- ・校務支援システムやタブレットの活用、プログラミング学習の充実に向けた研修

を継続推進していく。

- ・教科指導に関する基礎的, 基本的な研修を行う。→メンター制の活用
- ・外部講師を招いて特別支援教育についての研修を行う。

(4)教職員の協働

- ・小中の連携, 全教職員の共通理解ができるように, 職朝, 終礼, 研修を活用する。また, 行事が追加や変更された場合などは, 確実に全教職員が把握できるように徹底する。→校務支援システム, Teams等の掲示版としての活用。コロナ禍における職員会等のリモート会議。

(5)地域・保護者との連携・協働

- ・コミュニティスクールとして, 学校, 地域, 保護者が連携・協働できるように, 地域と共に行う教育活動に重点を置いた学校運営を行う。また, コロナ禍の現状により保護者や地域との交流が少なくなっている中で, 連携を生かす, 深めるためにも積極的にコミュニケーションを図る。

(6)業務改善等, 働き方改革の推進

- ・各自の業務内容, 時間等を可視化し, 業務の効率化を図るとともに教職員の業務の負担の平準化へとつなげていくため, グループウェアを活用した客観的なスケジュール管理を行っていく。→タイムマネジメントの推奨